

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinaceちはら台		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。</li> <li>・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。</li> <li>・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。</li> </ul>	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	個別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生においては、個別に宿題を行うことで苦手な教科に対して、興味が持てる。</li> <li>・「できた」を育て次へのチャレンジの気持ちを育てている。</li> </ul>	定期的な研修を行い、共有
3	語彙力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードやサインを併用して発語の促しを行っている。</li> <li>・動きの真似をすることが、行動と言葉に連携していることを取り入れている。</li> </ul>	定期的な研修を行い、共有

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の活動	保護者同士の交流を希望されている声を伺う為、交流等を行うことができないか検討が必要。	他教室との連携を取りながら行う。
2	地域交流	地域の幼稚園や保育所との交流、又は、地域のイベントへの参加の方法を検討が必要。	イベントの内容によって、保護者と一緒に参加するなどを企画ができないかを考える。
3	保護者参加での研修	空き時間が無い為、保護者を交えての研修を行うことが厳しいのが現状。	他教室と連携をして、空き教室において研修を開く事ができないかを検討していく。